

熊本県立荒尾支援学校進路便り わーく&らいふ

令和5年度第12号（通巻第87号）令和6年3月15日発行

■CONTENTS■

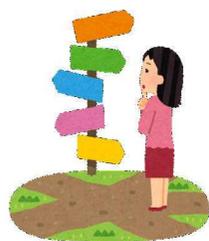
【特集】卒業生保護者からのメッセージ ～卒業生保護者の体験談に学ぶ～

進路だより「わーく&らいふ」では毎年、「卒業生保護者からのメッセージ」と題して特集記事をお届けしています。今年も卒業生25人（一般学級22人、重複障がい学級3人）の保護者からお寄せ頂いたアンケート結果の中から、在校生の保護者の皆様や私たち教職員に向けたメッセージをご紹介します。

特別支援学校は、小学生から高校生までが学ぶ場であり、下級生にとっては、上学年・学部へのあこがれを生み、子どものキャリア発達を刺激するよい環境と言えます。

また保護者の皆様にとりましても、身近な場所に、数年あるいは10年ほど先を歩む先輩（生徒・保護者）たちの姿があることで、「将来必要なこと」に気づき、日頃の子育てのヒントや「今からできること」を知ることができるはずです。

今回の特集では、卒業生保護者から寄せられたメッセージの中から「進路選択に向けたポイント」をはじめ、「これまで効果的だった取組や足りなかった取組」などをお届けします。子育てを考える上での「様々な価値観」や「視点」に富んだメッセージが盛りだくさんです。学校生活を終える先輩保護者の今の複雑な「感慨」に思いを馳せながらどうぞお読みください。



質問1 「進路を決めるに当たってのポイントは何ですか？」

【本人の意思・希望】

- ・本人の意思を尊重して本人に決めるように促しました。
- ・本人の希望を第一に考えました。・本人の意思を尊重しました。
- ・本人の意思や働きやすい環境である事を大事にしました。また、その後も将来一般就労が目指せるように子どもとも話を何度も行いました。

【現場実習 親子で意見交換】

- ・いろいろな職種の現場実習を体験させてもらい、本人に合う進路判断につなげるように親子で話しました。
- ・実習に行ってから、本人の能力と作業内容が合っているかどうか（を確認しました）。

- ・本人のやりたい事と出来る事はどんな事かを考えました。
- ・本人の意思を大切に、親からはアドバイスする様な考えで進めていったら良いと思います。

- ・本人とよく話し合い、無理なく通勤ができ、職場の雰囲気などを重視しました。

【親の願い・安心感】

- ・本人が自分の居場所と感じられる様な、本来の自分でいられる様な安心できる環境を見つける事で、自分の力を発揮できる様にと考えました。
- ・本人が喜んで行ける所・本人がやりたい事、興味がある事を仕事として出来てその対価としてほんの少しでもお金がいただけるのであれば（いいと考えました。）
- ・子どもがてんかん発作があるため、（放課後等デイを通じて）体調面を分かっていただけで、本人も家族も安心できる所に決めました。
- ・事業所の方の人柄や施設内の雰囲気、仕事の内容。

【親の情報収集】

- ・「福祉サービスセミナー」に参加したり、「手をつなぐ育成会」に入ってたくさんの情報を集めたり、たくさんの方々と話したりして、子供に合ったところを見つける努力をしました。
- ・本人が楽しめそうな活動があるか。作業があるか。
- ・場所、就労時間、送迎有無、作業内容、就労先の雰囲気。
- ・放デイ等から生活介護に切り替え、事業所内で連携してもらえそうか。将来に向けて利用ができそうか考えました。



【子どもをよく知る人からの助言】～相談員、担任、先輩保護者～

- ・先生方や相談支援専門員の方などの助言です。
- ・担当の相談支援員さんやリハビリの先生、学校の担任の先生等に常に相談させて頂いていました。
- ・リハビリで先輩のお母さん方にお会いした時に、生活介護の生活の様子を尋ねたり、他に生活介護のある事業所がないか聞いたりしていました。



【子どもの長所を伸ばす】

- ・やりたい事が見つかったらそれに向けて本人の長所（優しさ、一生懸命さ）を発揮できるような言葉掛けをし（良かった点を気付いたらほめる）、できていない点もその都度声を掛け少しでも出来る様に頑張ってきました。

【まとめ】進路選択のポイント

例年最も多いのが「本人の意思」の尊重です。しかし実は「選ぶこと」「意思」を表すことにこそ支援が必要で（意思決定支援といいます。）小さいうちから「選ぶ」経験を繰り返したり、段階を踏みながら意思を表す経験を積むことが大切です。それでも、子どもの将来を託す進路を決める決断はそう簡単ではありません。ですから「現場実習」や「施設体験・施設見学」を通して、親も子も情報収集し、活動の様子、子どもの表情や情緒の安定など色々な視点から「本人の意思を確認」し、「親の目を見た安心感」のある場所を考えていくことが大切です。

質問2 家庭の取組で「やって良かった。」と思うことは何ですか？

【ともに喜び、たくさんほめること】

- ・良いことをした時や何かを達成した時などは、一緒に喜び合い、大袈裟なぐらいに褒めました。
- ・とにかくほめること。全てを受け入れること。
- ・相手に気遣いができた時、手伝いをしてくれた時はしっかりとほめて本人のやる気が上がるようにしてきました。



【子どもの話を聞くこと】

- ・とにかく話を聞きました。話し方を変えてみたりもしました。

【あいさつ、礼儀などの躰】

- ・中学生の頃からあいさつ、礼儀などを身に付け、きちんと出来るようになりました。
- ・まだなかなかできていない事の方が多いのですが、挨拶や返事などはずっとしっかりできるよう声掛け中です。

【「ありがとう」のことばかけ】

- ・幼少期（小学部）から「ありがとう、をたくさん言って聞かせてきて（たくさん言葉はしゃべれなくても「ありがとう、は言えるようになって欲しいと思って）本当に「ありがとう、はすんなりすぐに言えるようになりました。」

ありがとう!

【自力通学】

- ・高等部に入って始まった自力通学。1人で行かせることはとても心配でしたが、親の心配など関係なく、何度かバスに乗り遅れたことはありましたが、事故もなく、ケガもなく遅刻することもなく3年間通えました！！



【お手伝いとおこづかい】

- ・卒業に向けて、仕事をするという意識付けのために、お手伝い表を作り、達成する事で、おこづかいをあげるという家庭内のルールを作りました。1回目のおこづかいで好きな本を買った事で、とても意欲的に頑張れました。
- ・事業所さん（もんくうるさん）で体験した皿洗いのお手伝いをきっかけに家でも食器洗い、お風呂掃除、トイレ掃除、モップかけ、お米とぎ、洗濯物干し、たたみ、野菜切り等ほんとにたくさんのお手伝いをすごい使命感をもって頑張ってくれました。
- ・「お手伝い」食器洗い、料理（材料を切る、まぜる、いためる）などまかせると喜んでやってくれ、助かりました。親が困っていると自分で考えて動いてくれる様になりました。
- ・掃除を自分1人でできるようになる事を目標に、まず床の掃除機がけとウエットシー



トでフローリングワイパーがけを教えました。今では毎日のルーティンになっています。あとは、帰宅後うがいと歯みがきを毎日頑張っています。

【家族でお出かけ】

- ・本人の好きなこと、やりたいことを尊重する為によく家族でお出かけしてました。初めての場所・人・が苦手なので大勢の人の中でお茶を飲んだり、食事したり。今では、平気になりました！



【思い切ってチャレンジ】

- ・難しそうな事も思い切ってチャレンジさせる→自転車やJRを使って目的地まで行く。進んで手伝いをする。→言わなくてもいろいろな手伝いをやってくれて助かっています（風呂の掃除、食器洗い、庭の草取りなど）
- ・なんでも1人でさせていくと自分からしてくれるようになりました。

【読み書き】

- ・ひらがな、カタカナの読み書き

【まとめ】家庭での取組 ポイントは「長い目」と「習慣化」

最も多かった意見は「家事・手伝いをする」ことでした。お手伝いは、できることが増えるだけでなく、人からほめられる経験を増やすことで自己肯定感を向上させ、意欲を育むために効果的な取組で、人のために行動する(はたらく)ための基礎を育みます。

このようにお手伝いは、良いことづくめ。まずは特別なことをさせようとせず、親と一緒にいろいろな家事をやってみる経験から始めてみてはいかがでしょうか！

質問3 学校の学習・生活を通して身に付けたことは何ですか？

【コミュニケーション・人間関係】

- ・人とのコミュニケーション力や声の大きさ等、まだまだ課題はありますが、かなり成長したと思います。
- ・先生や友達とのコミュニケーション力がついてきました。
- ・お友達とのコミュニケーションがとれるようになりました。
- ・素晴らしい先生方、お友達に出会えて人とのコミュニケーションの取り方やたくさんの思いやり優しさに触れて思いやりの心が身に付きとても心豊かになった様に思います。
- ・社交性、協調性、コミュニケーション力（人とのかわり方）を学びました。
- ・たくさんの先生方にかわいがって育てていただいて信頼関係が出来、お友達に出会えて楽しいこと、大変なことを共に乗り越えられて良好な人間関係の作り方を学んだと思います。



- ・挨拶、お返事！！ 言葉は話せませんが、「フンッ」と大きな声で話してくれます。
- ・人見知りの克服！！ 学校ではたくさんの方々（先生方、お友達）とのかかわりがあり、楽しかったようです。
- ・集団生活の中で友達との関わり方を学べたと思います。

【あきらめず頑張る力】

- ・学習や活動の面でもあきらめずに根気強く頑張る力が身についたと思います。

【いろいろな経験】

- ・いろんな作業学習もさせていただいて、先生方におんぶに抱っこだったとは思いますが、たくさん素敵な作品も出来上がりました。
- ・作業を丁寧に集中して続ける力や理科・社会の学習でもたくさんの知識を得ることが出来ました。
- ・たくさんありすぎて選べません。登校後から下校前まで準備・片付けなど家で取り組めてないことまでしてもらっていたので、他の生活に役立っているのだと思います。

【同級生からの影響】

- ・周りのお友達の影響でいろいろできる事が増えました

【自信と積極性】

- ・漢検学習を通して、様々な事に対して自信をつけたと思います。
- ・元々は前に出ていくタイプではなかったが少しずつ学校での生活をしていく中で積極的になれたと思います。
- ・漢字検定や技能検定など一生懸命努力し、頑張ること。沢山実習に行き、働く力もついたのでと思います！？
- ・代表になってリーダーシップを取る事、責任感や達成感等、本人の自信につながりました。
- ・進んで学習に取り組む→漢字検定に向けて1人でコツコツ努力する。

【友人・仲間】

- ・友人、仲間の大切さ。おもしろい。

【規則正しい生活】

- ・早寝、早起きをして、1日の流れを身につける事ができました。

【まとめ】学校生活の意義 ～社会へ出るための準備の場～

学校生活は、いろいろな人と「過ごす」「活動する」「はたらく」ことを練習するための大切な場所のひとつで、将来の社会生活への準備期間です。また、学校の集団生活には、苦手な活動があるばかりでなく、ルールや制約もたくさんあり、子どもにとって心地よいことばかりではありません。しかし、集団生活だからこそ、友人やクラスメイトによい影響を受けて取り組み、課題を解決することができるのも学校です。こうして子どもたちは、将来社会を生きていく上で大切なことを学びます。

質問4 もっと力を入れておけば良かったと思うことは何ですか？

【心の安定】

- ・イライラしたりすると物に当たったりすることも多くみられるので忍耐力や我慢する気持ちなどをしっかり教えておけば良かったと思う。

【趣味・余暇の活動】

- ・何かスポーツをやらせたかった。
- ・コロナ禍もあり、外出をひかえていたので、家で過ごす時間が多く、もっと休日の過ごし方を考えなければならぬと思いました。
- ・1人で自由に外出したり、買物をしたりすることをたくさんさせておきたかった。



【時計の活用】

- ・時計を見て、自ら行動すること。



【手伝い】

- ・出来ないから、、、と本人にやらせなかった事が多かったので身の回りの事、手伝いなど出来なくても継続的にやらせると良かったと思っています。
- ・家庭内での手伝いをもっと教えておけば良かったです。日々時間に追われ、つい大人がやってしまいますが、もっと料理や洗濯等、いつか自立する事を目標に、やれる事があったんじゃないか・・・と考えます。
- ・整理整頓（部屋の）する事をもっと上手にさせなければいけないと思いました。

【療育・学習】

- ・発音が不明瞭なので小さい時にもっと言語訓練に通わせればよかった。
- ・文字の読み書き、数の理解等
- ・発語。言語のリハビリを小学校いっぱいがんばりました。発語するようにはなりましたが、文章等になると苦手になってしまってます。

【自力通学】

- ・バスを使って自分の力で通学できる様に練習すると良かったと思います。

【生活技能】

- ・自分で食器を使用しての食事。

【いろいろな活動への参加・経験】

- ・好き嫌いがはっきりしている為、好きなもの、活動は集中するのですが、苦手なもの興味のない活動に対しては、やる気がゼロ！！ 対応が難しいです。
- ・やっぱり自分で出来る様になんでもさせておけば良かったと思います。

「まとめ」休日の過ごし方の重要性

卒業生を見ますと「休日をどう過ごすか。」が、実は生活の安定に大きな影響があることがわかっていきます。まずは親も子どもも楽しみにできる活動をいろいろ試してみましょう。

質問5 その他、在校生保護者へ伝えたいことは何ですか？

【実習の機会を大切にしましょう！】

- ・卒業まで長いようであるという間に過ぎていきます。いざ就労！！となった時に悩みが多ならないよう、行けるならばたくさん実習に行って、いろいろなことを経験するといいかと思います。

【子どもとじっくり向き合しましょう！】

- ・良いことはしっかり褒めて伸ばす。悪いことはしっかり説明をして理解できるようにする。

【今を楽しみましょう！】

- ・1年の時はいろいろ不安もありますが、3年になればきっと成長した姿が見えます。大丈夫、今を楽しんでください！



【早めに動きましょう！】

- ・中学部から支援学校に入りましたが、高等部卒業までとにかく早い、あつという間でした。出来る事は早め早めに動く事だと思います。

【人に相談しましょう！】

- ・まわりの方に相談していろいろと決める事が出来たので、話を聞いてくれる人に意見や助言を求めていくと決断しやすくなると思います。

【親の情報収集！事業所と直接意見交換をしましょう！】

- ・福祉サービスセミナー（福祉サービス事業所説明会）に参加して多くの情報を得ることをお勧めします。進路選択にとっても役に立ちました。施設と保護者のかけ橋になって下さり感謝しています。
- ・進路決定後に事業所の事情により、受け入れが難しくなり、焦りました。重複さんにとって事業所の受け入れや入浴できる施設は少ないです。



（重複障がい学級の）施設体験後に直接、事業所と保護者保護者が話し合う時間を取って頂けるので、その時がチャンス！卒業後に利用したい気持ちを強く伝えてみてください

【好きなこと、得意なことを見つけ(伸ばし)ましょう！】

- ・子どもさんが一番目を輝かせて頑張れる事を見つけてあげてください！

【学校はいろいろなことを身につけられる場所。学校生活で力をつけましょう！】

- ・学校は本当にありがたい場所です。家でもなかなか取り組めないことでもしてくれたりするので、「こんなもことできるの!？」と思う時がたくさんありました。「今日、学校だよ」「学校行くよ」と伝えると、良い反応をしてくれるのも学校が楽しい場所だとわかってるからだと思います。いろいろな活動・取り組みをしてくれる学校、先生方には感謝しかありません。



【自分でできることを増やしましょう！】

- ・いろいろな事を経験して、自分がどうなりたいか、何をしたいのかを見つけてください。毎日の生活の中で、手伝いをたくさんして少しでも出来る事を身に付けて働く力を身に付けられると思います。早寝、早起き、自分の事は自分でやる事を身に付ける事も大切だと思いました。

編集後記

先輩保護者からのメッセージはいかがだったでしょうか。実際に進路選択に向けて取り組まれた卒業生保護者の皆様のメッセージには毎年学ぶことが多く、特に質問5「その他、後輩に伝えたいこと」にあげられたキーワードには、先輩保護者の経験から得られたものであるだけに、進路選択のみならず、日々の子育てに活かしたいことがたくさんありました。

「子どもとじっくり向き合うこと。」「(親子共々)今を楽しむこと。」「好きなこと、得意なことを見つけ伸ばすこと。」「人に相談すること。」など、日頃はお仕事や家事で慌ただしく過ごしておられる日々の中にあっても大切にしたい「価値や考え方」だと思います。今回の特集が、皆様にとって、いろいろな「価値」に触れ、各ご家庭の生活に反映され、子どものよりよい成長を促す一助になりますことを願っております。



(文責 谷口)



進路に関する、疑問・質問は左のQRコードから、どしどしお寄せください



